

# プロのジャズメン

〜14〜

「ホットクラブオブジャババ。何しろ相手は「タベの音」には、創立以来、薄っぺ 楽」で名を売った名ディスクラだけども、とても内容豊富 ショッキーなのだ。だが運よな会報が出ていて、そこにはくと言おうか、その日はたまた今をときめく評論家の人たちが、たまにC・パーカー特集で、こ



改築前の名古屋観光ホテル 31年ころ

同ホテルで演奏する当時の鈴木正二郎さん

が筆をとっていた。僕らの「ヒバップ」にかけては僕「ナゴヤホットクラブ」がスの方がずっとほれ込んでる タートした時は、その会報も んだからなんて、内心妙に気すでに四十五号を数えて歴史 をうかがわせたが、以来末尾 第に定着していわば常連みた り」が載ることになった。

そんな訳で時には思いがけぬ人が会場に現れて驚かされたものだ。中でもNHKの石田豊アナには冷や汗ものだった。

「何しろ毎回一番前に陣取って、スピーカーに耳をくっつけてんばかりに、聴き入っている。ある時リーダー格で少しばかり年かさの品の良い人がおたやかに話しかけて来た。

「実は僕はプロのジャズメンですが、いつもとてもうすきな勉強をさせて頂いていると感謝しています。よかったですね」

「会場は、専属オーケストラの リーダーの上、パイオニアの 将校クラブになっていた。戦前からの名門ホテルらしくどっしりした雰囲気である(改築前である)。ギタリストでもあったその鈴木正二郎さんは、専属オーケストラの リーダーの上、パイオニアの

「毎度格別目立って熱心に聴いていたその若者こそ、やがて上京して鈴木章治のリズムエースに参加、たちまち日本を代表するファイブ奏者となった松崎童生だった。

本場のレコードの後では恥ずかしいから前座でという鈴木さんの謙虚な希望に従っての生演奏は、会員に深い感銘を与えたが、それをきっかけに、「僕らでよかつたら」というプロたちが続々現れたのは二度びつくりだった。

松坂屋の北側にあつてはやはりアメリカ兵相手の「千代田クラブ」を根城としたベースの竹内弘(後にシャープスアンドフラッツ)に加え、率いるコンボや、今も名古屋の第一線で活躍するギタリスト富田一照のグループたちだった。

そしてこれが僕とプロミュージシャンとの交流の始まりとなつたのだ。

(内田 修)

## プロのジャズメンから演奏の申し出

「ぼったことを思い出す。とここで会員の方たちも次いなか。でもうれしいお申し出、遠慮なくのちまおう。それから間もなく、その方の仕事場だったすぐ近くの名古屋観光ホテルにおじゃまして。当時海軍に接収された。何しろ毎回一番前に陣取

た。当時海軍に接収された。何しろ毎回一番前に陣取

た。当時海軍に接収された。何しろ毎回一番前に陣取

た。当時海軍に接収された。何しろ毎回一番前に陣取